

奈良県

自治会活動のお役立ち情報誌

第2号

自治会ジャーナル



連携の力でコロナに負けない地域づくり

目次

知事メッセージ、自治会関係データ	2	[事例] 宇陀市、橿原市、なら自治会ニュースコンクール	6
[事例] 地域自治協議会の取り組み(奈良市)	3	奈良県自治連合会の活動	7
[事例] 子どもを地域で支援(天理市)	4	トピックス、サポート・助成事業	8
[事例] 三郷町、生駒市、葛城市	5		



自治会活動の活性化に向けて



奈良県知事
荒井 正吾

自治会の活動は、地域の安全・安心、防災、健康増進など、身近なことに役立つ機能を持った、大変有意義で大事なものです。また、県や市町村が行う様々な施策・事業を円滑に進めるには、例えば用地協力など地元、特に自治会の理解・協力が不可欠です。

その一方で、住民と地域とのつながりの希薄化、担い手の不足、高齢化等が自治会の大きな課題になっています。加えて、コロナ禍によって地域の行事が中止を余儀なくされるなど、人のつながりが弱まるのが懸念されています。

このような状況のもと、県では、奈良県自治連合会と連携・協働して、情報共有の促進や研修事業の支援などに取り組んでいます。特に重要な防災・防犯については、県が直接、人材育成や活動支援も行っています。

県民の皆様には、まちづくりに関心を持っていただき、自分たちのまちをどのようにしていきたいかを表明していただければ、まちづくりを進める上で大きな力となります。

また、今後、各地域で進む高齢化の中で、地域の活性化を図るためには、自治会が、NPOや社会福祉協議会など、多様な団体と連携することも大切なことです。

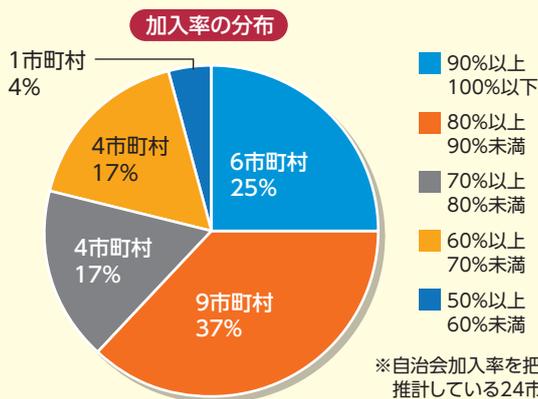
県では、自治会ジャーナルを年2回程度発行することとしており、そうしたヒントになる活動事例を紹介するとともに、県自治連合会や市町村とも連携して、自治会活動の促進を図ってまいりますので、地域活性化のため引き続きご協力・ご尽力いただきますよう、お願い申し上げます。

自治会関係データ

ほとんどの地域で自治会加入率が年々減少しており、地域で支え合う力の低下が懸念されます。

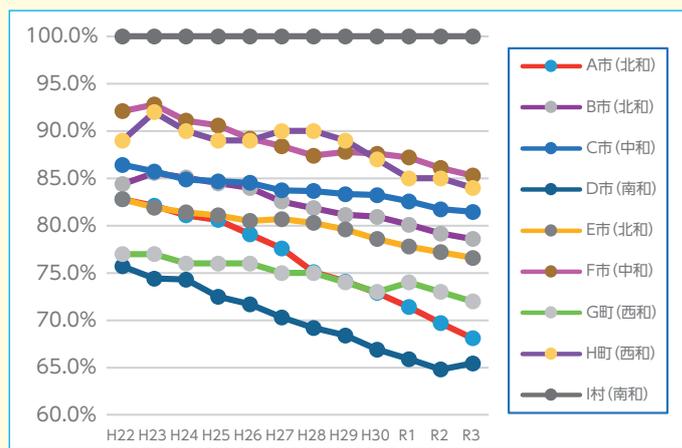
○県内自治会数：3,954団体(令和3年4月1日現在)
(最多市町村=1,126団体(a市)、最少市町村=4団体(b村))

○県内自治会加入率の状況



○県内自治会加入率の低下

加入率の推移



○まちづくり基本条例制定状況と地域運営組織等の設立件数

(令和4年3月1日現在)

市町村	条例名	施行日	協議会名	協議会数
奈良市	奈良市市民参画及び協働によるまちづくり条例	平成21年7月1日	地域自治協議会	14
大和郡山市	大和郡山市自治基本条例	平成24年4月1日	(市民公益活動を行う組織)	
生駒市	生駒市自治基本条例	平成22年4月1日	市民自治協議会	2
宇陀市	宇陀市のまちづくりの基本理念条例	平成26年3月24日	まちづくり協議会	22

市町村	条例名	施行日	協議会名	協議会数
上牧町	上牧町まちづくり基本条例	平成26年4月1日	まちづくり協議会	
王寺町	王寺町まちづくり基本条例	令和3年4月1日	まちづくり協議会	
広陵町	広陵町自治基本条例	令和3年6月1日	まちづくり協議会	
吉野町	吉野町まちづくり基本条例	平成27年4月1日	地域自治協議会	4
計				42

1 地域自治協議会の取り組み(奈良市)

多様化する地域課題に対応するため、自治会をはじめ地域で活動する各団体が、小学校区などまとまったエリアで連携・協働する地域自治組織づくりが進められています。

奈良市では、住民主導で「地域自治協議会」の設立が進められており、朱雀地区まちづくり協議会もその一つです。

1. 奈良市自治連合会地域自治協議会検討委員会 委員長 (奈良市自治連合会 相談役) 吉岡 正志さん

●地域自治協議会の必要性

高齢化、単身世帯の増加や核家族化、共働き世帯の増加など世帯構成やライフスタイルの変化によって、自治会をはじめとする地縁組織の弱体化が危惧され、これまで地域コミュニティが担ってきた防災、福祉、教育、文化、環境保全等の地域の様々な課題への対応力が低下していく恐れがあります。

そこで、地域を支える多様な主体が連携協働し、主体的に課題解決に取り組む、住民自治のまちづくりを進めていく必要があります。自治会などの地縁組織だけでなく、福祉に関わる各種団体や事業者、NPO、ボランティア団体などが連携することで、活動の担い手が確保され、新たなアイデアが生まれることが期待できます。また地域の意思が束ねられ、行政との窓口が一本化することで連携も円滑に進みます。奈良市ではこうした組織を「地域自治協議会」として、条例で位置づけ推進しており、令和元年以来14地区で設立されました。

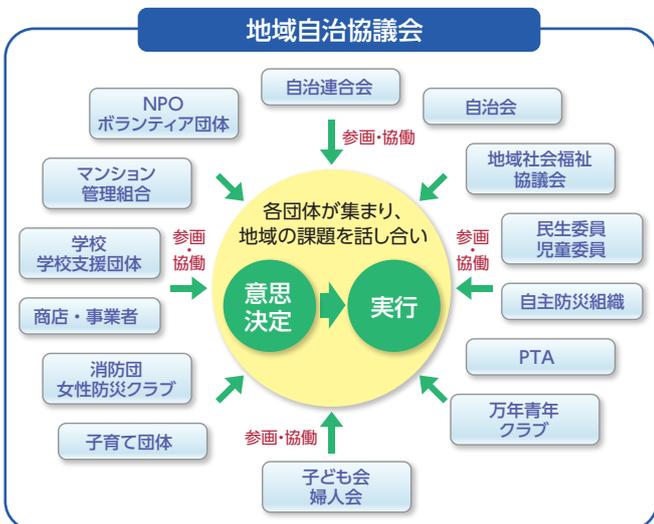
●設立までの経緯、設立促進

地縁団体や各種団体がそれぞれに活動しているだけでは、多様化した地域の課題に対応しきれないと感じていました。地域がまだ元気なうちに、地域を支える多様な主体がまとまり取り組むまちづくりのしくみが必要でした。そこで、平成25年から市自治連合会を中心に取り組みをはじめました。

設立のための検討委員会では、協議会設立を促進するため、先進地視察や地域づくりセミナー、事業報告会を重ね、準備中の地区には出前講座も実施しています。

市には、協議会持続のため重要な活動拠点の確保・整備や財源確保のための市事業の委託なども求めており、実現しつつあります。

地区毎に住民の力を合わせ、声を束ねて、行政の力も引き出しながら、自分たちで住みよいまちづくりができればと願っています。



地域自治協議会の構成イメージ

2. 朱雀地区まちづくり協議会 会長 (奈良市自治連合会 会長) 作間 泉さん

●朱雀地区まちづくり協議会の取組状況

コロナ禍で、地域活動もままならない状況ですが、地域みんなで考え、「出来ないではなく出来ることはないか」という思いで、感染防止対策の徹底を強化し、2020年に引き続き「キッチンカーフェスタ2021」を開催しました。地域内外から約1,500名のご参加をいただき、天候にも恵まれ、楽しいひと時を過ごすことができました。



今年度は、選りすぐりの8台のキッチンカーに出店いただき、スタッフは奈良県立大、奈良高校、平城高校、平城東中学校、朱雀小学校と地域あわせて100名体制でにぎやかに開催できました。学生さんと地域のコラボで楽しく活動することを今後も大切にしたいと思っています。



●まちづくり協議会 ～将来への展望～

“まちづくり=人づくり・仲間づくり”をコンセプトとして、団体間の垣根を取り払い、地域住民との距離感もなくなるよう「オール朱雀」で気軽に語り合えるプラットフォームづくりに重点を置き、課題への熟議を役員だけでなく、地域一丸となって取り組むよう心掛けています。

このまちに必要なことは何か？ 設立準備段階から現在・将来もずっとこの課題は忘れてはいけないと思います。居酒屋、そうめん流し、水遊び、焼き芋パーティー、ハロウィンイベントなどの行事を開催したり、安否確認シート(無事ですシート)やQQカード(救急時に役立つカード)を全戸配布するなどこのまちに必要なことをみんなで考え、事業を進めてきました。三年目の今年、ようやく地域に根付いて課題解決が迅速に行えるようになってきました。また、自主性も芽生え、新しい事業の計画や、人材の発掘もできてきています。これからもこのスタンスを変えずに取り組んでいきたいと思っています。

2 子どもを地域で支援 天理市櫛本地区の取り組み

天理市の櫛本校区では、多様なメンバーが参画する「櫛本こども夢応援プロジェクト」が櫛本校区区長会の下に設けられ、地域で子供を育む様々なプロジェクトを実施。学校が地域の人々と子どもを繋ぎ、地域の人同士を繋ぐ拠点になっています。

1. 天理市櫛本校区区長会 会長 尾関 正春さん

地域で子どもの育成と夢の実現を応援する。この夢のあるプロジェクトを校区で多くの賛同を得て進めています。核家族化の広がり等により、地域の活力も失われてきています。そんな中で、子どもの夢を応援し、見守り、大人と一緒に学ぶ取組により、地域の絆を維持し再生できると思います。地域の有志によるプロジェクトのメンバーが、手作りのプロジェクトを担ってくださっています。



校区区長会会長から町力塾への招待状の授与

櫛本小学校が今年創立150周年を迎えるのを機に、校舎を改修し、地域の方々が利用できるセミナールームや地元産物のアンテナショップを設けていただき、参加自由なミニ講演会を開催予定です。地域と学校が連携して、子どもも大人も地域で学ぶことを目指しています。今後も住民、学校、各団体が地域一体で子どもを育てていきたいと思います。

2. 櫛本こども夢応援プロジェクト 代表 森田 祐司さん

●こども夢応援プロジェクトについて

子どもを地域で見守り、その夢の実現を応援する「櫛本こども夢応援プロジェクト」として4つのプロジェクトを実施しています。

「みんなのとしょかん」では、長寿会を中心とする図書ボランティアが、利用頻度が低かった小学校の図書室を復活させ、幼稚園児に開放して小1プロブレムの解消に一役買っています。

「夢見守りプロジェクト」では、地域の高齢者ボランティアが児童と一緒に学校まで登校します。一緒に登校したボランティアは、会議室を一時転用した「夢ふれあい茶屋」で歓談します。子どもたちは一緒に登校してくれるボランティアを覚えていて、子どものほうから町で挨拶するなど、地域の大人と子どもが互いを思いやる気持ちが芽生えています。

「町力塾」は、放課後にボランティアが行う無料の補習塾です。定期テスト等でわかった弱点をフォローする復習プリントで自習し、ボランティアが採点します。夏休みと冬休みには終了後に子どもも大人も一緒にカレーを食べる「町力食堂」も催されます。



○櫛本こども夢応援プロジェクト
LINE公式アカウント



「夢つなぐプロジェクト」は、町力塾で貯まったポイントが上位の6年生を対象に、夢の職業を申請し、選抜されると職業体験ができるというものです。例えば、将来パティシエになりたい子どもには、県内有名店のパティシエの指導でお菓子作り体験を行ったり、スタイリストの指導でファッションショーの実施、著名デザイナーを招いてデザインの仕事を体験したり。プロ野球選手を招いたときは、抽選会も行い盛り上がりました。

●こども夢応援プロジェクトを支える人々

地元ボランティア、地域コーディネーター、PTA役員、小学校教職員などで構成する「櫛本こども夢応援プロジェクト」が運営し、学校と地域住民が協働することで、小学校を拠点とする子ども育成支援活動が実現可能となりました。

こうしたプロジェクトの提案者は当時の校長でした。学校を地域に開放する決断をし、教職員の理解と協力をまとめ、我々と共に取り組んでくださった、このプロジェクトの立役者の一人です。町力塾の教材も校長自ら作っていただきました。

実施に当たっては、校区区長会からの支援のほか、住民や地域企業からの募金で支えられています。校区区長会には、町力塾への招待状の授与や事業の周知にもご協力いただき、地域の誰もが参加しやすい環境を作っていただいています。

今後も地域住民が協力して子どもの成長を応援してゆきます。そして、その子どもたちが、将来地元で活躍してくれることを楽しみにしています。

3. 天理市教育委員会 教育長 伊勢 和彦さん

学校は地域の大切な資源であり、本来学校は地域に開かれているべきだとの思いが根本にありました。地域の人たちに児童・生徒の成長を見守っていただき、地域で子どもたちを育てただくことで、生徒は地域や地域の大人と関わり、大人になってからも地域や地域の高齢者に感謝を持ち続けてくれると思ったからです。また、学校や子どもの育成に関わっていただくことで、地域が活き活きとすれば素晴らしいとも思いました。

私が櫛本小学校長だったときに櫛本プロジェクト協議会*を立ち上げられました。森田さんをはじめ思いを同じくする地域の有志の方々に方策を練っていただき、プロジェクトとして実現されました。

今後、他の校区でも、地域に開かれた学校と地域との連携が広がることを期待しています。

*櫛本プロジェクト協議会：櫛本小教職員、幼稚園園長、PTA会長、地域コーディネーター、プロジェクト役員で構成し、事業を協議。事務局を兼ねる。

3 参加の可能性を広げるハイブリッド役員会(三郷町美松ヶ丘自治会)

○三郷町美松ヶ丘自治会 会長 澤 美穂さん

三郷町美松ヶ丘自治会(約770世帯)では、新型コロナウイルス感染症拡大を機に、月1回の役員会(10名)と班長会(30名)を、集会所への参集とオンラインを併用するハイブリッド方式で実施しています。

子育てや介護等で家を空けにくい世代にとって、役員会や班長会議等への出席が負担となっていました。誰もが参加できる自治会活動とするためには、会議への参加方法は選べるほうがいいと考え、手作業で導入しました。世帯の状況に応じてオンラインでの出席を選べるため参加しやすくなり、評判も上々です。

核家族化や高齢化が進む中、役員・班長の負担を減らせるところは減らし、より大事な部分で力を合わせるようにしなければ、自治会活動は持続しないと感じています。そのためにITの活用は有効な手段だと思います。自治会ホームページの立ち上げも検討中で、IT担当になって下さる人を募っています。

自治会館にインターネット環境が整っていないことや、会場に専用の端末が無いことなど課題もありますが、若手や働き盛り世

帯などの参加促進にも繋がるので、コロナ禍が収まった後も、デジタルツールを上手く取り入れて、参加しやすい自治会にできればと思っています。



4 健康まちづくりをテーマに地域団体が連携した「朝活読得会」

○生駒市自治連合会 会長 森岡 文夫さん

高齢化の進展などにより、単独の自治会だけではできないことが多くなってきています。多様化・複雑化した地域ニーズに対し、地域みんなで解決していく仕組みを作り、市民と市の協働と市民同士の協働により、まちづくりを進めていくことが重要だと感じています。

生駒市中地区では、まず健康をテーマに、地区自治連合会、老人クラブ、民生・児童委員協議会が健康分野で連携して取り組む健康まちづくり協議会を結成しています。協議会と図書館が連携し、図書館で健康体操や朗読を行う「朝活読得会」(あさかつよんどくかい)を開催しており好評です。図書館司書の皆さんに朗読や朗読書籍の選択で協力いただき、スタンプカードで参加促進に工夫するなど、図書館が地域の集いの拠点となっています。



5 歴史を活かし、伝統行事を継承(葛城市竹内区)

○葛城市区長会 監事(竹内区区长) 菊江 博友さん

日本最古の官道といわれ日本遺産にも指定されている竹内街道を中心に、地域の歴史・文化の継承を軸とした自治会活動を実施しています。伝統的なだんじり、夏祭り、春の歴史ハイキング等により地域の絆を維持しています。加えて、竹内まちづくりマップ等により、地域の見所を紹介しています。一方で、自警団による年末の巡回や、消防出初め式、放水訓練や、竹内峠の美化活動といった地道な活動も持続しています。

松尾芭蕉が句を残し、司馬遼太郎が「街道をゆく」の中で取り上げるなど、歴史ある竹内。私たち竹内住民は、文化遺産を守り、親睦を大切に、自治会活動を継承していきます。



6 宇陀市連合自治会の取り組み

●活動状況

宇陀市は自治会加入世帯数9,541世帯、自治会数208団体で、市内4地域毎に地域連合会を組織しています。少子高齢化、人口減少や生活様式の変化に伴い、コミュニティの基盤となっている地域への愛着や住民同士のつながりが希薄になり、多様化する地域課題への対応がますます難しくなっています。このような状況の中、誰もが住みやすい地域であり続けるために各種イベントの開催や事業など自治会行事を実施しています。

宇陀市では市内全地域で概ね小学校区毎に「まちづくり協議会」が設置されており、自治会が中心となっている協議会も多く、「まちづくり協議会」とともに安心して暮らし続けられる地域づくりを進めています。

○宇陀市連合自治会 会長 藤田 隆啓さん

令和3年4月に宇陀市連合自治会の会長、同年6月に県自治連合会に加盟し理事として重責を担うことになり、日々多岐にわたる自治会の諸業務に直面する中、責任の重さをひしひしと痛感しております。

昨今、地震や大雨などの災害の発生や新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の事態に直面し、改めて自治会活動の大



市長を囲んでの研修会の様子

切を実感しており、地域の繋がりを持つことで、お互いに協力し合う関係性が築かれ、災害などの被害を最小限に食い止めることができると考えております。今後も当会として、行政と地域を繋ぐ役割を果たし、諸団体とも連携しながら取り組んでいきたいと考えております。

7 橿原市自治委員連合会が連携で打ち上げ花火 ～同時打ち上げ市内4カ所～

○橿原市自治委員連合会 会長 榎谷 佐千代さん

1月10日(成人の日)、「かしはらみんなの日 見上げてごらん! 夜の空を!」と題して、主催橿原市自治委員連合会、PTA連合会、共催に橿原市、更に市議会をはじめ多くのご後援を頂き花火打上

げを開催しました。コロナ禍で多くの行事や集まる機会が失われる中「夢・希望・活力」を届け、新成人の門出を祝福し、市民の皆様や医療従事者、学校自治会関係者等困難に立ち向かっておられる方々への感謝を込め、今後益々橿原市民が元気で笑顔が増えるよう祈念する趣旨の下行いました。

当日は19時から市内4カ所で一齐に、合計800発の花火を打ち上げ、橿原市の夜空が華やかに彩られました。各場所では、感激の言葉と共に大きな拍手が起こり、元気が出たとの声も頂きました。開催にあたり自治委員、PTAの皆様や市職員、地域の有志の方々が立哨や見回りをを行い、翌日は片付け作業を行い、保安と清掃に努めました。連携協働により実現することができ感謝申し上げます。



8 なら自治会ニュースコンクール ～地域の情報共有と参加を促す自治会情報紙を応援～

なら自治会ニュースコンクール実行委員会(事務局河合町)の主催で、毎年優れた県内の自治会広報紙を表彰し、その内容を高め合う「なら自治会ニュースコンクール」が開催されました。11年目を迎える今年度は県内から23団体の応募があり、桜井市三輪区自治会の「三輪区コミュニティ新聞 馬酔木」が最優秀賞に選ばれ、昨年度の毎日新聞社賞に続き2年連続入賞されました。



最優秀賞の「三輪区コミュニティ新聞 馬酔木」

今年度受賞一覧

受賞名	発行団体	情報紙名	
最優秀賞	桜井市三輪区自治会	三輪区コミュニティ新聞 馬酔木	
毎日新聞社賞	奈良市六条校区自治連合会	六条校区ほほえみだより	
優秀賞	河合町泉台自治会	泉台ニュース	
優秀賞	奈良市大宮地区自治協議会	大宮地区総合広報紙 きずな(絆)	
優秀賞	香芝市すみれ野自治会	すみれ野通信	
奨励賞 審査委員	支えあいま賞	奈良市富雄団地ともに支えあう会	団地情報
	風通しが良いで賞	河合町中山台自治会	中山台ニュース
	防災キャンペーン賞	王寺町東王塚自治会・自主防災会	東王塚だより
	集会所から広げま賞	生駒市さつき台南自治会	さつき台南自治会会報
	花壇アイデア賞	生駒市ローレルコートエスタの台自治会	エスタ自治会ニュース

奈良県自治連合会の活動

令和3年度 年間活動

担当課長会議等を除く

- 5月 第1回役員会
- 6月 総会・第1回理事会(オンライン)
- 8月 第2回理事会(オンライン)
- 9月 第1回研修会(オンライン)
- 11月 奈良県自治功労者表彰
全国自治連合会全国大会(福山市)
県外研修
- 12月 知事との懇談会
- 2月 第2回研修会(オンライン)

※全国自治連合会全国大会(福山市)、県外研修は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に鑑み中止しました。



令和3年6月に新たに宇陀市が加わり、全12市を含む20市町村に加盟いただいています。益々必要とされる防災等での広域での連携や情報共有に、連携して取組みを進めます。

研修会

年3回研修会(うち1回は県外視察研修)を開催し、自治会に関するタイムリーな課題について知識を広げる機会を設けています。コロナ禍においても、オンライン配信や各自治会でもご活用頂けるようDVDの配布により実施しました。令和3年9月には、「避難所における良好な生活環境について」と題し、段ボールベッドで避難所の環境改善を進める、Jパックス株式会社代表取締役の水谷嘉浩氏の講演をDVDに収録し配布しました。

知事との懇談会

平成30年度から、知事との懇談会を開催しています。いくつかの自治会の事例発表の後、知事と意見交換を行っています。(事例発表については5ページ4・5参照)



自治功労者表彰式



自治会長を長年にわたり務めていただいた方々の功績を顕彰するため、奈良県知事表彰、奈良県自治連合会長表彰を授与しています。

知事表彰(20名)

【大和高田市】植島勝美 【大和郡山市】稲田重廣、加藤隆男、千賀茂世、吉田文雄 【橿原市】上田逸朗、奥村善弘、尾田増夫、米川憲久 【桜井市】久保元秀 【五條市】高崎浩司 【御所市】鈴木順三 【生駒市】平井和男 【香芝市】中村昌平、松下守 【田原本町】藤川佳伸、三濱敦彦 【明日香村】浅山友造 【上牧町】服部公英 【王寺町】水谷賢次

会長表彰(44名)

【奈良市】梅林聰介、尾形季久雄、金野秀一、吉岡正志 【大和高田市】岡本太三、小松丈夫、當麻嘉平、吉田武史 【大和郡山市】池田善晴、磯部信孝、平尾英治、村井孝之 【天理市】尾関正春、小山恵司、中尾勉、宮崎勝巳 【橿原市】梅本長美、松本元二郎、吉井タカ子、吉田前一 【桜井市】川畑章、久保田登三子、中咲忠清、藤井守 【五條市】榎内圭一、永井正己、福井純二、榎田勝一 【御所市】植田昌克、海東住夫、中井戸和文 【生駒市】西野秀男 【宇陀市】新禎夫、馬出利夫、寺澤亮一、森本光俊 【田原本町】濱川利郎、山本雅俊 【高取町】中村秀雄 【明日香村】福田雅治 【王寺町】孤杉俊治、古田英機 【大淀町】下西佳行、長谷川昇

奈良県自治連合会 会長 岡本 雄嗣(葛城市区長会会長)



本会は、県内市町村自治連合会相互の親睦を深め連絡を密にして自治会組織の向上発展に努め、関係行政機関との協調を図り、地域住民の福祉向上と豊かな地域社会づくりに寄与することを目的に結成され、現在20市町村で構成しています。

会長に就任してから本年6月をもって2年になります。この2年間を振り返って見ますと、新型コロナウイルスとの共生の中、事業の実施方法を見直すなど、試行錯誤の連続であり、関係者の皆様には、様々なご迷惑をおかけしながらの活動でした。ここまで来られたのは、ひとえに各市町村自治連合会の会長初め事務局のご協力、ご尽力のおかげであると感謝しております。

地域の伝統文化を継承していく中で、多様化、複雑化する地域課題に対応するには、共に考え、共に取り組むことが重要です。未加盟の市町村自治連合会におかれては、ぜひご加入頂いて、共に頑張って行きましょう。

トピックス

災害対策基本法の改正 引き続きご協力をお願いします

災害時における円滑で迅速な避難の確保のため、災害対策基本法が昨年5月に改正されました。平時から避難先、避難経路、自宅の安全性、持ち出し品などを考え、準備し、市町村が出す避難情報等を参考に、迷わず避難しましょう。

1. 従来の避難勧告と避難指示を避難指示へ一本化

- 避難のタイミングを明確にするため、警戒レベル4の避難勧告と避難指示(緊急)を「避難指示」に一本化(従来の避難勧告を発令していたタイミングで、避難指示を発令)
- 災害が発生・切迫し、警戒レベル4での避難場所等への避難が安全にできない場合に、自宅や近隣の建物で緊急的に安全確保するよう促す情報を、警戒レベル5「緊急安全確保」として位置づけ
- 早期の避難を促すターゲットを明確にするため、警戒レベル3の名称を「高齢者等避難」に見直し



2. 避難行動要支援者の個別避難計画の作成が市町村の努力義務に

高齢者等の自ら避難することが困難である避難行動要支援者への避難支援の実効性を高めるため、国の取組指針において、日頃から本人に関わる多様な主体が参画して計画を作成するよう示されています。

自治会が使える県のサポート・助成事業



安全・安心まちづくりアドバイザー派遣事業

自治会等の自主防犯・防災の取り組みに、県が委嘱した、先進的に自主防犯・防災活動に取り組んでいる地域のリーダーの方をアドバイザーとして派遣します

参加者が概ね10名以上となる次のような集まりにアドバイザーを派遣し支援します

- 自主防犯・防災組織の立ち上げのための説明会
- 自主防犯・防災活動に関する研修会
事例紹介やアドバイスなど
- 自主防犯・防災に関する各種訓練
訓練の技術支援など

*アドバイザーの旅費、謝金は県が負担します
(市町村、学校等の公共団体の長及び民間事業者が当該従業員に対して行う研修等は除きます)



主な申し込み要件(詳細は下記までお問い合わせください)

- アドバイザーの活動内容に合致する内容であるもの
- 概ね10名以上の参加者を見込んで実施されるもの
- 営利目的、政治思想や宗教の教義等を広める目的でないもの等



開催の1ヶ月前までにご相談ください

お問い合わせ先

奈良県安全・安心まちづくり推進課

TEL: 0742-27-8576

*アドバイザー一覧、申請様式等はホームページをご覧ください。

URL: <http://www.pref.nara.jp/14068.htm>

詳細はこちら



地域貢献サポート基金

県民や企業等の寄附を原資として、地域課題の解決に取り組む自治会やNPOなどが実施する事業に助成しています

令和3年度に募集した寄附者テーマ設定型協働推進事業

- 奈良県内の自然・環境・文化財の保全・活動事業
上限25万円×1事業(寄附者: (株)伊藤園様)
- 大和川水系の水環境改善活動
上限30万円×2事業(寄附者: 大和信用金庫様)
- 奈良の文化遺産やまちなみの保全事業
上限40万円×3~4事業(寄附者: イオングループ様)
- 地域の子ども・若者の健全育成事業
上限10万円×7事業(寄附者: 奈良県青少年育成ボランティア協会様)
- コロナ禍における地域のつながり再構築事業/
地域における自助・共助による防災・減災事業
上限25万円×2事業(一般寄附分の活用)

※例年、4月5月頃以降に事業募集を行います。事業採択にあたっては公開プレゼンテーション、奈良県協働推進審査会による審査を実施します。



お問い合わせ先

奈良県青少年・社会活動推進課

TEL: 0742-27-8715

*制度の詳細、募集中の補助事業等はホームページをご覧ください。

URL: <http://www.naravn.jp/kikin/>

詳細はこちら

